

### 3 2 & 3 3. 高木 美奈氏、佐々木 遥香氏 (株式会社チャムズ (子育て応援サイト kids cham) )

「子育て中の女性の挑戦や活躍を後押しする『ママが輝けるまち』であってほしい。」



高木 美奈 (たかき みな)

北九州市出身

これまで、ブライダルヘアメイクやエステティシャン、メイクアップアーティストとして従事。

佐々木 遥香 (ささき はるか)

北九州市出身

保育免許所有。これまで貿易業やイベント企画運営会社にて従事。

#### 「子育てしやすい環境を引き継いで」

北九州市は、福岡市ほどの大都市ではありませんが、家族単位でも行きやすいローカルな市場・商店街やリーズナブルな飲食店等が充実しているなど、生活しやすいまちだと言えます。

また、程よい都会である一方で、自然が多く、低料金で子どもと遊べる施設も充実しています。家族連れでは車利用が多くなりますが、駐車場料金も適正で、渋滞しないなど道路環境がよく、ストレス無く移動することができるのも大きな魅力ではないでしょうか。

さらに、この生活環境の中で、市場に子連れで出かけると、気軽に声をかけていただくなど、地域みんなで子どもを育てる温かな市民気質が多分にあると感じます。安心して子育てできる、子育てしやすい環境が整っているといえるでしょう。

このような良さは、ぜひ残し、引き継いでほしいと考えています。

#### 「ママがキャリアを作っていける環境を」

北九州市には、実は高学歴を有するなど、潜在力の高い女性が多く住んでいます。しかし、家庭に入ったママが再就職する際に、勤務形態が障壁になり、「働きたい」よりも「働ける」職種を選ぶ傾向にあります。また、男性はキャ

リア形成のために転職できるのに、女性はそのような観点で転職できない状況にもあります。これでは「稼げるまち」にはつながらないのではないのでしょうか。

そのような状況を変えるために、企業側にはママを受け入れる体制を作っていただくとともに、ママ側もスキル磨くとともに、覚悟を持つ必要があるでしょう。現在、当社では、ママと企業をマッチングするイベント「ママドラフト会議」を運営しています。今後、双方の意見を橋渡しする活動を北九州市と一緒に広げていきたいと考えています。

併せて、子どもを安心して預けることができるように保育園の充実やパパの理解醸成等の施策が進むことを期待しています。

#### 「地域で子どもを育てる体制の更なる充実を」

例えば、名古屋市では子育て家庭に、子育て家庭優待カードが渡されて、様々な企業や店でサービスを受けることができ、地域で子どもを育てようという体制が整っています。

北九州市でも、母子手帳を見せればサービスが受けられるような仕組みは既にありますが、手帳自体が重く、持ち歩かない場合も多いのが実情です。デジタル媒体でサービスが受けられるような仕組みが民間企業との連携を含め検

討・実現できれば良いですね。

また、北九州市の子育て関係の情報発信力は弱いと感じています。せっかく良い情報・内容であるのに、伝わらないことは非常にもったいない。加えて、子育てに関する情報（習い事、遊び場所等）が各事業者の個別発信になっており面的に探すことができません。

そのため、地域の子育て情報を集約し、子育て世代が各サービス等を比較検討できるポータルサイトの運営を行っています。これが事業を始めたきっかけでもあります。

引き続き、市とも連携しながら、さらに地域の子育て情報を集約するとともに、利用者を増やしながら、子育て世代を後押ししていきたいと考えています。

### 「子育てしやすいまち・ママが輝けるまちへ」

これは、当社としても目指すべき将来像として掲げているものです。

「子育てに関連するほしい情報がまとまった便利なサイトがほしい」と、高校の同級生で意気投合し、サイト開設したのがきっかけの当社自身、これまで、スタートアップとして北九州市のバックアップを受けながら、事業をここまで成長させることができたと感じています。

このように、ママの挑戦や活躍を後押しするまちであってほしいと願っています。

### 34. 高橋 理沙氏 (LINE ヤフー株式会社 北九州センター)

制約を抱えていても、自分のやりたいことをやり続けられるまち。」



高橋 理沙 (たかはし りさ)

1987 年生まれ。北九州市出身。2014 年にヤフー株式会社 (現 LINE ヤフー株式会社) に入社。その後、2 回の産休・育休を経て、広告運用サポートのマネージャー業務に従事。ワークライフバランスを大切にしながら、1 人 1 人が輝いて生き生きと働けるように組織づくりに向き合っている。

#### 「互いの価値観を尊重している」

五市対等合併は他の市と比べて特色になっているかもしれません。北九州市に住んでいて、改めて考えると、北九州市は広く、区ごとの価値観が同じ市内でも違いますが、それぞれ違う価値観を持ったままでも交わることができているまちだと感じます。

#### 「田舎と都会、どちらも味わえる」

幼少期から比べると変わってきたのかもしれませんが、私は八幡西区に住んでいたのに、小倉北区に出ることは都会に出るという感覚があり、市内で移動しているだけなのに都会に遊びに行く、という感覚を得られるのはすごいことだと大人になってから感じるようになりました。

#### 「仕事と家庭の両立ができる」

働くということに関しては、北九州市で就ける仕事は職種の幅が広く、どのような制約があったとしても何かしらの職種に適合することができるのではないのでしょうか。事情を抱えている人でも選択肢があり、やりたい仕事を選ぶことができるまちだと思います。

加えて、どんな職業を選んだとしても、「北九州市という場所に住んでいたい」という気持ちと、「自分がやりたい仕事をしたい」という

気持ちが両立しやすいまちではないでしょうか。住んでいるところから動けない、しかし働かなければならないという場合には大抵、やりたい仕事を諦めなくてはならないジレンマに陥りますが、北九州市ではそのジレンマに縛られずに生きていけます。土地にも仕事にも縛られず暮らしていけるのはすごいところだと思います。

土地に縛られないというのは、交通の便がいいということにも起因しています。当社ではオンライン勤務を推進していく中で、東京に住んでいた方が北九州市に家を買って転居してきたケースもありました。思い切った選択ですが、東京に 2-3 時間で出られるし、東京よりも子育て環境が整っていて過ごしやすい。ずっと住んでいる立場としては、北九州市から出ずにキャリアを積み、生活を続けていくことができるまちです。共働きで働く際に、自分の両親と同居もしくは近くに住んで助けてもらう事を想定すると、北九州市に住み続け、子育てができるということは、羨ましがられるポイントです。

#### 「稼げるまち＝働き続けられるまち」

稼げるまちは、働き続けられるまちのことだと思います。北九州市には製鉄など素晴らしい技術があります。ほかの市だと、“この市はこの職種”のように決まっている感じがしますが、

前述のとおり、北九州市は就ける職種の幅が広いです。AIが入ってきたとしても色々な職種があるので、未来に対応できるポテンシャルがあると思います。新しいことを受け入れ、働き続けられる職種があれば長く続いていけるまちになれるのではないのでしょうか。

女性の働き方については、両親や身内の助けを借りて働き続ける方が多くいます。良いところの反面になるかと思いますが、企業の努力や自治体の力がまだまだ足りていない証かと思います。核家族だけで育てるとなったときに、父母どちらかに負担が偏ってしまいます。

### 「企業誘致に積極的」

北九州市は、企業誘致にも積極的です。市内にはたくさんのコールセンターがあり、ヤフーのコールセンターも誘致を受けました。コールセンターという職種は、他の職種で働くことが難しい方も働くチャンスが得られる職種です。東京など大都市にある会社の仕事を北九州市にいながらすことができ、キャリアアップしていけるとするのはメリットです。

### 「純度の高いまち」

介護など事情を抱えていたり、人と対面で話すことが苦手だったり、という事情があっても働き続けられるまちだと思います。

新しいことを始めやすいまちでもあります。資格取得などの仕事のキャリアアップを考えた際に、資格を取る・取れない・取りやすいという話ではなく、いろんな価値観の方がいるので、自分の幅を広げられる、刺激を受けることのできる環境が整っています。色々な仕事・事情の人がいて、色々な学校や企業があるので、キャリア軸を狭めずにやっていけるといえるのがありがたいです。

地域で行われている取組についても、子どもを通じて知ることが多いのですが、北九州市

では幅広い取り組み（セミナー・創作・自然活動等）を行っており、新しいことを始めるときにとっつきやすいと感じています。

### 35. 田中 亮一郎氏（第一交通産業株式会社 代表取締役社長）

「住んでいてホッとできる、人にやさしいまちになってほしい。」



田中 亮一郎（たなか りょういちろう）

青山学院大学卒業後、82 年全国朝日放送（現テレビ朝日）入社。85 年第一交通産業社外取締役に就任。01 年より現職。全国ハイヤー・タクシー連合会副会長・地域交通委員長として公共交通空白地域の解消を推進。ほか、福岡県タクシー協会名誉会長、北九州タクシー協会会長、福岡経済同友会副代表幹事、北九州商工会議所副会頭などを務める。

#### 「各区の特徴を生かしたまちづくりを」

五市対等合併以降、1 つにしようという意識が強いと感じていますが、それぞれ歴史があるまちですから、無理にまとめなくても良いのではないのでしょうか。不動産事業をしていますが、若松に住みたい人もいるし、門司や小倉が好きな人もいます。それぞれの良い所や、核をつくっていくのが良いと思います。

#### 「働き手の確保と働く場の充実を」

日本の若者の人口が少なくなる中、北九州市には、10 の 4 年制大学があって毎年 2000 人以上の新しい学生が入ってきます。少なくとも 2 ～ 4 年は居ますし、このようなところは地方ではほとんどありません。彼らにいかに残ってもらえるかが重要です。働き口の確保の面でも、工場誘致をしなければどうにもならないという他都市に比べれば、九州 2 番目の人口規模を誇る都市であり、捨てたものではないと思っています。

一方で、北九州市から転勤した人は北九州市に戻りたがるという特徴があります。加えて、これから増える 65 歳以上の元気な高齢者も働ける場所が必要です。また、その中でコミュニケーションがしっかりとれる場を提供することも重要でしょう。

#### 「住む人たちが嬉しくなれるまちを」

商工会議所の副会頭を務めていますが、中心市街地の活性化のための会議に出ると、メンバーからは「北九州市は、まだまだ大丈夫、九州で 2 番目に人口の多い都市だ」という気持ちが伝わってきます。この強さはポテンシャルだと思いますので、うまく活用して商店街の活性化にも取り組んでいけば良いのではないのでしょうか。安易な再開発で高層ビルを建てることは建設費や賃貸料が高くなり、地元の人たちが住みづらい場所になるという可能性があります。最近、東京では大型スーパーが縮小し始めており、反対に商店街が活性化しています。土地が高いので、大きな開発がしづらいからというのも要因です。その中で、地域の特色としてお祭りもやっているようです。

したがって、規模で大きくなるというよりは、小倉の商店街を生かしていく、他のものに変化させていくという方向で、今あるものを再生しながら徐々に変わっていくという方向性が良いと考えます。

かっこいいまちでなくとも、住んでいる人たちが嬉しいまちをどうつくるかが重要です。

コロナ禍の 3 年間に、IT、DX で働き方も変わってきています。会社は中心地にあつたとしても住宅は近郊にあり、近郊の商店街に行く機会が増えているように感じます。商業施設の周り

に住宅があるというよりは、住宅の近くで簡単な買い物をできるようにしていくと良いのではないのでしょうか。

### 「まち歩きができるような交通を」

交通では、ラストワンマイルの移動を高齢化に向けて考えなければなりません。福岡市では実証で校区別のおでかけ交通を始めています。区の単位で行ったアンケートではニーズは無かったのですが、校区や町内会などより細かいレベルで聞くと、ニーズがあることが分かりました。

北九州市でも門司や若松などで移動手段の整備をしていくことが重要ではないでしょうか。そのようなデザインをしないと、回遊性を高めることはできません。

郊外にビルを建てて、ショッピングモールを作ると、車の運転が必要になります。したがって市街地の商店街で日用品が手に入る仕組みを構築するために、我々もまち歩きができるような交通をつくっていきたいと思っています。

当社では、全国約300か所で「おでかけ交通」を実施していますが、これまで止めた地域はありません。ドライバー人口減少による人手不足、高齢化の中でも、人の移動は無くなりません。しかし、広く居住エリアが分散されると困るので、居住エリアを誘導していくことが必要です。立地適正化計画もありますが、反発がある中でそれらをどのように整備し、住んでいて良かったと言われるまちにできるかが重要でしょう。

### 「エネルギー自給システムを次の産業に」

北九州市には、工業、農業、水産業、洋上風力も含め、世界的にも力のある企業があります。九州は自動車産業で栄えてきましたが、燃料電池車も出てきて、水素への移行など、市としてどう考えるかが重要です。行政が変われば、まちの状況も変わると思います。

「環境未来都市」など環境面では、成功させ

てきているので、新しい産業にソフトランディングさせるかどうか考える必要があります。大手自動車メーカーの動きによって北九州市内の製造業は大きな影響を受けるでしょう。北九州市で電気自動車をつくらうとする企業に出資して、これを次なる製造業としていこうという機運には大賛成です。

現在、電気自動車の部品のほとんどは中国でつくられています。安定的な供給、サプライチェーンが途切れてしまう可能性に備え、国産で作っておくことが必要です。電気自動車のバッテリーを活用して、住宅と連携することも可能となります。

北九州市には水資源もあるのでダムの稼働を引き上げれば水力発電もあり得るのではないのでしょうか。製造業だけでなく、発電を自分たちでできるような仕組みをどうつくっていくか、電気自動車に必要な電力をどう供給するかも重要です。最終的には、人が住むためのエネルギーを自給できていく必要があると思いますが、北九州市はそれができるまちだと思います。それを一つの産業にしていくのが良いのではないのでしょうか。

### 「ホッとできる人にやさしいまちに」

東京ではなく、北九州市に本社を置いている大企業があるのは、帰ってきてホッとするまち、一度リセットできるまちであるからではないのでしょうか。これからは特にリタイアする人や子育てする人にやさしいまちになってほしいと思います。

暮らしていて不便がなく、以前より東京との格差は少なくなっているようにも感じます。あとは、子育て世代を呼び込むためにも、教育の中身を充実させて北九州市の学校に来たいと思わせられるような仕掛けが必要でしょう。子育てしやすいまちランキング上位にあっても、きちんと中身が伴うかが重要です。経済界でも新たな学校開設などに向けた後押しができればと考えています。

### 36. 築城 則子氏（遊生染織工房 主宰）

『凜としたまち』へ。北九州の人々がもつ気質を生かし、  
実直に守るべきは守り、かつ革新的なことにも挑戦していく。これが伝統となる。」



築城 則子（ついき のりこ）  
北九州市生まれ。染織家。  
早稲田大学中退後、染織研究所、久米島、信州で  
紬織について学ぶ。  
1984年に小倉織を、1994年小倉縮を復元。1995  
年に遊生染織工房を設立。  
日本伝統工芸染織展文化庁長官賞をはじめとしたさ  
まざまな受賞歴をもつ。

#### 「北九州の気質と風土を体現する小倉織」

その土地の持つ風土と気質を現したものと  
して、伝統工芸があります。北九州の伝統工芸  
の一つが小倉織です。この小倉織は、織物のな  
かでも特異な性質を有しています。それは、経  
糸が多く、木綿の織物の中でも生地が丈夫でな  
めらか、高品質な点です。

経糸が多くなると、織が細かくなり織りづら  
くなるのですが、これまで小倉織が、簡易な方  
向に流れず、実直に守るべきものを守ってきた  
ところに、このまちの気質が現れていると思い  
ます。決して雅な世界ではなく、まさに「質実  
剛健」という言葉が当てはまる。これまで引き  
継がれてきたこの織物には、このまちに住む  
人々の精神的なエッセンスが表れているので  
はないでしょうか。

このことは、市民性として、いつの時代も変  
わらずに、「器用が変わることはできないけれ  
ども、筋を通す気質がある」ことにも通じてい  
ると感じています。

#### 「ものづくりの歴史と豊富な自然環境」

この小倉織ですが、ご存じのとおり、一度途  
絶えてしまいました。明確な理由はわかりませ  
んが、繊維産業から重工業への転換が進められ  
た中で、鉄を中心とした製造業のまちに代わっ

ていったのではないかと考えています。

ただ、これまでを通して言えることは「もの  
づくり」という環境は常にあったということ  
です。私が小倉織を始めた後も、若い方々が様々  
なものづくりにチャレンジしています。こうい  
ったものづくりの精神は、このまちのポテンシ  
ヤルではないでしょうか。

江戸期からの300年間を考えると、小倉  
織を作り続けた先人たちには、生半可なこと  
ではぶれない、強い志がありました。小倉織は「粋  
だと言われることが多いですが、「心意気」の  
「意気」という言葉にも通じているのではと感  
じています。

また、北九州市の持つ豊富な自然環境も大き  
なポテンシャルでしょう。

小倉織は緯糸が見えず、たて縞になるという、  
制約が多く融通の利かない織物ですが、その限  
られた中でもデザインとして情感を込めるべ  
きだと常々思っています。その情感の源泉は、  
やはりこのまちにある自然ではないでしょ  
うか。これほど身近に自然が豊かな大都市は他  
になく、作品を制作する中で、四季をどう映し  
ていくかなどを考えると、インスピレーション  
の源泉はこのまちのいたるところに溢れてい  
ると感じます。

### 「九州の玄関口であり、世界とつながるまち」

北九州市は九州の玄関口であり、本州から来る人々が必ず通るまちとしての自負を持っていると思います。また、北九州の人々にとって、関門海峡を通る船の往来は「日常の風景」と言えます。海がすぐそばにあるまちに住んでいると、それがあまりにも当たり前になり過ぎていて、意識していないかもしれませんが、北九州の人々が持つ、このまちと世界はつながっているという、「世界への目線」は、DNAの中で、自然としまついているものなのではないかと感じています。

このような歴史や人々のもつ意識を考えると、充実した港湾整備や北九州空港の24時間化は当然の経過だと思いますし、今後はこれらをより生かしていけるとよいのではないのでしょうか。

### 「『伝統』には、『守り』と『革新』が必要」

時代は変化し続けているものです。伝統工芸と聞くと古臭いというイメージもあるかもしれませんが、伝統はその時代において革新でなければいけないと思います。

なぜなら、守りばかりでは、伝統は駄目になってしまうからです。革新的なものに挑戦し、新たなものを取り入れていくことこそが、次の時代の伝統として受け入れられていくのです。

そういう意味で、これまで北九州市において新しい分野に取り組みされてきたことは素晴らしいと思います。それぞれの産業に携わる皆さまが、新しいものを取り入れつつ、今までのものも守っていくことで伝統が形づくられ、今の北九州市があるのだと思いますし、今後もそうなるようになっていくことでしょう。

明治以降の日本で最も早く、劇的な変革を実現したのは、この北九州市だと思います。人々の移動がそこまで多くはなかった時代、官営八幡製鐵所の操業を契機に、全国各地から人が集まり、まちが発展してきました。

それまで他のまちが経験したことがないことをこのまちは先んじて経験しており、その分、スローダウンも早かったということではないのでしょうか。あともう何年か経つと、どこのまちも北九州市と同じ課題を抱えるようになっているのではと思います。

先に経験しているからこそその目線を、早くから示して、素晴らしいモデル都市になってもらいたいと切に願っています。

### 「『凜』としたまち、『良い加減』のまち」

「凜」は、潔さを含めた言葉と捉えています。このまちの行政や企業などが進む姿は、「凜」としていて、このまちで行われている、目標に向かっていく推進力は非常に大きいものがあると感じています。

また、暮らしの面では、仕事で東京や海外に行くことも多々ありますが、あまりにも大きいまちは疲れを感じやすいです。

そういう意味で、北九州市は心地よく暮らせる「良い加減」のまちと言えます。人口が100万人に近い大都市であるにも関わらず、自然にも恵まれ、物価も高すぎず、暮らしやすい。

そうなること、普通は何か足りないものがあることも多いのですが、空港があり、新幹線ののぞみ全便が停まる小倉駅があり、北九州市を本社とする企業に誇りを持って、本当に様々な面で利便性が高く、ほどよく暮らせるまちだと感じています。

文化人類学で言われる「中心と周辺」。中心ではなく、あえて周辺だからこそその満ち足りた気持ちが似合う北九州市ではないのでしょうか。



### 37. 辻 正隆氏（株式会社 gaaboo 代表取締役社長/プロデューサー）

『九州の Teppan!』の北九州市。若者&ツナガリを大事に、市は SNS 発信力を高め、市民が自信を持って地元の魅力を発信してこそ強い北九州ブランドが築かれる！」



辻 正隆（つじ まさたか）

北九州市出身。IT 系ニュースメディア、コミュニティ会社役員、マイクロソフト(株)を経て、(株)ミクシで執行役員メディアビジネス本部長、(株)ミクシマーケティング代表取締役社長等を歴任。2014 年に SNS コンサルティング&デジタルマーケティング支援等を行う(株)gaaboo（ガープ）を創業し、グループ 4 社で大手企業を中心に 150 社以上支援。現在、「地域活性化起業人」制度を活用して PR&SNS 支援のために北九州市に社員を派遣中。

#### 「自分達自身で語れてこそ北九州ブランド」

北九州市政 60 周年の 2023 年 7 月に由緒ある旅行ガイドブック『地球の歩き方』の国内初の市版となる「地球の歩き方 北九州市」の出版プロデュースを発表しました。2024 年 2 月には東京八芳園や JAM 広場で発売 PR イベントを主導し、多くの方々のご協力や応援のお陰で Amazon の『ベストセラー1 位』となる記録的ヒットとなりました。

今回、発売の目的としては、よくある観光本だと福岡県版のわずか数ページに北九州市情報が取り扱われる程度となるのがモッタイナイと感じて、「100%北九州市版だけのガイドブックを発刊すること」にありました。狙いとしては①地元の方に北九州市 7 区の魅力を再発見して欲しい、②日本中にその魅力を知って欲しい、という 2 点で、東京の放送局にも訪問した PR 活動も実り、全国ニュースでも長尺で取り上げていただけて、目的&狙いを果たせたと感じております。

今後については『発刊して終わりではなくスタートに』したく、新たなテーマとして①観光関係者の方々で「地球の歩き方 北九州市版」の 2 次利用の検討、②韓国版、中国版、台湾版を作成しインバウンド活用を、と考えております。また、個人的には北九州市は八幡製鉄所な

どをおこした日本の近代産業の父である安川敬一郎翁の出身地ですし、若い方々の起業家精神を刺激する取り組みや、北九州市内の B2B 企業の PR 力向上支援も出来たら良いと考えております。

北九州市に立派な観光資源があることは地球の歩き方社が証明してくれましたし、もう福岡市と比べたり目指したりするのではなく「市民が自信を持って自ら北九州市の魅力を語れて発信できること」を通じて、強い北九州市ブランドの形成の推進を期待しております。

#### 「若者ターゲット&次世代スポーツ拠点」

PR 力については、若者が得意な SNS 全盛の時代に北九州市には大学があり、学生という人財がいることを活かすべきです。まずは北九州市の SNS（ソーシャルメディア含む）での発信力を日本トップレベルに高め、市民も巻き込みながら、北九州市の魅力を日本中、世界中に発信出来たらと期待しております。

また、過去に大手メディアや関連企業は福岡市に移ったことが北九州市の PR 力の転換点だったと考えておりますが、地元の大学や高校と積極的に連携して SNS などソーシャルメディアに強い街を打ち出し、勉強会などを支援して、支援を望む飲食店などと学生のマッチング(ア

アルバイトにもなる)や起業促進や就業機会を提供出来れば、新たな次世代編集会社、企画プロデュース会社、デザイン会社、人材会社なども育ち、北九州市の発信力も高まると考えます。結果、SNS上で北九州市を認知、関心を持ってもらう地道な努力を通じて『将来の生活拠点の選択肢の1つ』に努めて欲しいです。

人口減少については、東京以外の大半の自治体で人口が減るわけですし、ネガティブになるのではなく、今いる『市民の皆さんの幸せの総和を最大化すること』を目指して欲しいです。例えば人口が92万人から10%減ろうとも、全市民に今より1.5倍の幸せを感じてもらえるなら、自ずと人口も増えていくはずですよ。

施策としては、未来ある若者を明確なターゲットに据える検討をして欲しいです。市立大学の成績優秀者への学費無償化やマーケティングなど魅力的な授業をPR促進して全国から優秀な学生を集めて欲しいです。

また工場跡地や学校整理による空きスペースにアーバンスポーツ施設、eスポーツ専用スタジアム、次世代スポーツ施設の拡充を検討してはいかがでしょうか。DXによる事業環境の変化でスポーツビジネスも本格化しておりますし、超人気スポーツ以外に多様な若者ニーズに応える次世代のスポーツ施設を増やし全国からチームを招き、イベント大会への協賛支援などスポーツカルチャー創出を通じて人口問題、空きスペース問題、新ビジネスや周辺ビジネス創出といった一石三鳥を狙って欲しいです。

### 「観光強化は移動手段の強化」

詳細は省きますがタクシー、バス、ヘリコプター、飛行機と交通手段の多様化と、小倉駅北口&北九州空港(K&K)をハブ拠点に集中的で積極的な魅力化を期待したいです。既に北九州市周辺には下関、湯田温泉&長門湯元温泉、別府温泉、宗像、大宰府といった観光地もありますし、各自治体と連携して空港から各所へのバ

ス移動、観光タクシーやバスツアー各種支援、富裕層向けヘリコプター輸送、近隣アジアへの空港路線就航増強も期待したいです。

特に東京など首都圏より標準が小型車な為に安価で移動可能な北九州市のタクシー交通の魅力をPRし、更にタクシー運転手の方に北九州市のエバンジェリストであってほしい、業界団体共通の『1日観光プラン』の策定や各種研修も推進されては、と考えます。

### 「ヒトや企業をつなげる変化に柔軟な市に」

北九州市は「日本一市外に人材が流出した街」とも言えますが、転出して地元愛を持つ方々ばかりなはずですよ。日本中、世界中にいる地元出身者をつなげるコミュニティ構築を検討してみたり、地元出身の企業家・経営者・各種プロフェッショナルや、地元出身でなくとも魅力ある人材には積極的に接点を作り巻き込めたら良いな、と考えます。例えば航空券代とホテル代を市で負担手配し、来訪を促し地元起業家との面談をセットする等で関心や起業誘致数を狙うツアーをつくるのも一案だと思います。

また東京には市主催の北九州市関係者の交流会がありますが、若者に特化したツナガリ支援、例えば、市内の学校の同窓会組織と連携して、市内外で開催される同窓会などの北九州ツナガリ支援なんかも中長期的に大切だと感じます(岡山県が実施)。

今回、限られたスペースで、言いたいことのほんの一部だけとなりますが、よく言われる通り『強い者でも賢い者でもなく、柔軟なものが生き残る』は、市にも言えるのかなと思います。全国には1,700の自治体がありますが、北九州市には是非そんな柔軟な街であって欲しいですし、他方で地元民間企業には『井の中』とならず、市に頼りすぎず、自らオープンに仲間づくりを行い、逆にプロジェクトに市を巻き込む意識が大切だと感じます。

### 38. 辻野 晃一郎氏（アレックス株式会社 代表取締役社長兼 CEO）

「北九州市は昔から、世界に目を向け発展してきたまち。北九州市の背中を見て日本全体がついてくるようなリーダー的役割を果たしてほしい。」



辻野 晃一郎（つじの こういちろう）

北九州市出身。

慶応義塾大学大学院工学研究科修了。カリフォルニア工科大学大学院電気工学科修了。ソニー株式会社入社以降、VAIO、デジタル TV、ホームビデオ、パーソナルオーディオ等の事業責任者やカンパニープレジデントを歴任。その後、グーグルに入社し、日本法人の代表取締役社長を務める。

2010年10月アレックス株式会社を創業。

#### 「世界的企業家輩出の歴史を若い世代に」

北九州市は、ものづくりのまちとして栄えてきました。また、出光興産(株)を創業した出光佐三、TOTO(株)を創業した大倉和親をはじめ、錚々たる起業家を輩出し、旧八幡製鉄(現日本製鐵)や安川電機など、歴史的にも名だたる大企業が立地しています。この地で誕生した大企業や、この地に生まれ、世界に羽ばたいた先人たちについて、学校教育の現場等々においてしっかり伝えていくことは、郷土への愛や誇りを育み、世界的な視野で地元を発展させようというエネルギーを喚起する上で、極めて重要ではないでしょうか。

#### 「都市間連携など広域的な視点を」

世界第2位の経済大国であったわが国は、今や衰退国家であると言え、その中に北九州市があることを正しく認識する必要があると思います。いわば沈みゆく船に乗り合わせているような状況下において、九州全域や日本の他地域と無関係に北九州市だけが発展することは不可能です。九州全体、ひいては日本全体の発展につなげる方法を考えねばなりません。

例えば、関門経済圏における下関市との連携や福岡市との連携など、広域的な視点を持つことが求められます。具体的には、例えば、北九

州空港を九州国際空港として刷新し、混雑している福岡空港との役割分担を明確にして、日本にこれまでにない「ハブ機能」を持たせることなどを考えても良いでしょう。また下関市と連携した港湾整備や漁港の近代化などのアイデアもあるでしょう。

#### 「高等教育とその受け皿となる産業育成が肝要」

人口の流出、特に若年世代の流出の要因としては、大学等の高等教育機関の選択肢が少ないことが挙げられます。世界一流の教育が受けられる教育インフラをしっかりと作れるかどうかは、若い世代の流出を防ぐのみならず、市外や海外からの人材呼び込みのきっかけとなりうるのではないのでしょうか。

加えて、大事になってくるのは、この北九州の地に残って働きたいと思える産業を育てていくこと。これがなければ、教育インフラを整備しても、東京や大阪をはじめとする大都市への人口流出は抑制できないでしょう。

これまで、北九州の産業は製鉄や化学など重化学工業が軸でエンジニアリングに強みがありますが、今後はロボティクスやソフトウェア、AI も含めて最先端のテクノロジーを掛け合わせることが重要です。北九州市には、素晴らしい農産物や海産物もあり、テクノロジーに関し

ては、農業や漁業などの第1次産業においても取り入れていくことがポイントです。

また、半導体関連産業の復活を目指した投資機運が高まっており、熊本のTSMC誘致や北海道のラピダスの工場建設が決まっていますが、地元を巻き込みながら、それらを凌駕するような拠点形成ができれば、北九州市の明日にとって面白いと思います。

### 「課題解決の先進都市へ」

人口減少やそれに伴う産業の縮小など、全国で様々な課題が山積する中、北九州市がそれらの社会課題に対して、他の自治体の先頭に立って取組を進めていくことで、課題解決の先進都市として注目されるまちになることができるのではないのでしょうか。

北九州市は、国家のレジリエンスの観点から、地震の少なさを活かしたバックアップ機能を担うポテンシャルのある都市で、クラウド企業のデータセンターや、物流企業のウェアハウスなどの立地候補として魅力的です。また、環境問題など国全体の課題に対して、北九州市が率先的に取り組むことで、世界のベンチャー企業などからも注目されるまちになると考えます。

視点としては、地域主導で社会課題に取り組む、生まれた成果を全国に広げていくことで、国をも動かすムーブメントになるかもしれません。それにあたっては、独自の子育て政策の推進による成果が表れている明石市や、人口増が実現している福岡市など、他都市の成功事例をベンチマークすることも大切です。

それから、北九州市が広い視野をもってこれからの政策を考えていくためには、市の職員のみなさんが、グローバルな視点や考え方を持ち合わせる必要があります。職員の皆さんも、たくさん外に出て、見て、経験することが重要だと思います。

### 「このまちには様々な将来の方向性がある」

以上、北九州市が目指すべき都市像としては、これまでの歴史や蓄積してきた技術、地理的優位性等を考えると様々な方向性が考えられると思います。産業振興の観点からは、「最先端のエンジニアリングのまち」。また、将来それを支える若い世代の観点からは、「科学技術教育が充実したまち」、国家のレジリエンスの観点からは、「災害に強いまち」等です。

これらに共通して言えるのは、前述した通り、これまでのこの地における起業家精神を踏まえ、東京や大阪など国内を気にするのではなく、インドやマレーシア、シンガポールなど、発展著しいアジア太平洋地域に目を向け、グローバルな視点を持って、むしろ東京や大阪に背中を見せて進んでいくのが良いと思います。その背中を見て、日本全体がついていきたくなるようなリーダー的な役割を北九州市には是非担って欲しいと切に願っています。

### 39. 津田 純嗣氏（北九州商工会議所 会頭）

「構造として、5市の文化は残しつつ、メリハリのあるコンパクトな都市を。また、機能として、人材育成・供給力の高い都市を目指してほしい。そうすれば人も企業も集まる」



津田純嗣（つだ じゅんじ）

福岡市出身。

東京工業大学工学部機械学科卒業。(株)安川電機製作所（現・(株)安川電機）入社以降、米国安川電機取締役副社長、安川電機取締役ロボット事業部長等を経て、同社代表取締役社長、会長等を歴任。現在同社特別顧問、北九州市立大学理事長。2021年7月に北九州商工会議所会頭に就任（現在2期目）。

#### 「5つのまちの文化は継承すべき」

北九州市が引き継ぐべきなのは合併前から今も残る5つのまちの文化です。これが残っていることは重要な財産ではないでしょうか。

一方で5つのまちの特徴が、独立的に残っており、都市構造にも影響を与えているため、市街地が冗長になっている点や、今も製造業を中心とした従前の産業構造が残っている点などは、今後改善していかなければならない課題とも言えます。

#### 「人材育成・供給と脱炭素の拠点に」

人材育成・供給という意味ではベースとなる組織がしっかりしています。大学、高専のほか、産学連携の中心となっている北九州産業学術推進機構（FAIS）の存在も大きいでしょう。これらを生かして、人材育成・供給の拠点とするイメージで先鋭的に取り組んでいけばよいのではないのでしょうか。

土地のポテンシャルで言えば、鉄鋼業や化学工業で使われていた広大な土地があり、沿岸部はそれらに覆われています。その遊休地について、そのまま活用することは難しいかもしれませんが、脱炭素エネルギー化を進める拠点とし

てなどで発展的な使い方ができるのではないかと期待しています。

#### 「職住近接とウォークブルで魅力化」

まちづくりについては、「小倉」の徹底した魅力化を行った方がよいのではないのでしょうか。文化・遊戯施設などを含めた都市として発展させ、それ以外の場所は住みやすい職住近接の場所と位置付ける。そのような区別をしっかりと、発展の方向性を描いてほしいと思います。

食、買い物、遊び、映画鑑賞等々、すべて「歩ける距離」にある小倉のまちは、とても魅力的です。初めて北九州市に来たとき、とても驚いたことを鮮明に記憶しています。

歩けるまち、すなわち、ウォークブルなコンパクトシティを実現するためには、モータリゼーションとは距離を置き、自動車道を減らして、歩道を拡幅するなどを進めてはどうでしょうか。少し先鋭化した取組を実施して、まちが変わろうとしている、というメッセージを市民にもアピールし、その効果を市民に実感してもらうことで、さらに先鋭化した取組ができる、といった循環をつくっていったら良いですね。

### 「IT 化推進に中等教育が重要」

今後は、一般的な方向性は、IT をはじめとするサービス産業に力を入れていくということになります。また、北九州市の特徴と言える製造業についても、IT 化を徹底して進めなければなりません。

これらを進めるためには、人材が重要になります。先ほどベースはしっかりしていると申しましたが、より若い世代の教育を考えなければなりません。具体的には子育て世代に、「子どもの教育を考えたら北九州に行きたい」と思ってもらわなければならないようになってきます。

福岡県をはじめ、九州は、従前から旧制中学の流れをくむ有力な県立高校が多くあり、人材の育成・供給源となってきました。旧制中学は5年制でしたが、今の中等教育は中高3年ずつ、大学に進学するには、2度の受験を経なければなりません。一方で、千葉県や神奈川県は、既に県立の中高一貫校を展開し、成功を収めています。福岡県も公立校が元気なうちに手を打たなければ、取り返しのつかないことになるという危機感を持っています。

### 「IT 人材の需給ギャップを埋める必要」

産業の現場では IT 人材が圧倒的に不足しています。製造業の底上げのためにも IT 化は必須です。現在、リスクリングへの関心が高いのも、現場の危機感からくるものだと思います。

そこで、他の都市を圧倒するような人材育成をし、それを期待して他の都市から企業が来る、という流れをつくる必要があります。IT 企業を呼び込む活動も必要ですが、進出企業からすれば人材が確保できるのか、というのが一番気になる点です。今、北九州市において、地元で就職を希望している人と実際に就職している人との間にはギャップが生じています。IT 関係や事務関係が少なく、これらの志向の人が地元で就職したくてもできない状況です。IT 人材の育成と IT 企業の誘致は、需給ギャップを

埋めるという意味もあります。今は多くの学生が卒業後に市外に出ていくパターンになっているので、そこを良い循環に持っていく必要があるのではないのでしょうか。

### 「人材供給力の高いコンパクトシティに」

北九州市が目指して欲しい姿を一言で言えば「コンパクトシティ」です。その理由は、職住近接が可能な点や5市合併により市街地がやや冗長気味になっている点などを踏まえ、コンパクトシティになっていくことがふさわしいと考えているためです。

もう一つ挙げるとすれば、繰り返しになりますが、「人材育成・供給力のあるまち」。その理由は、産業転換・発展を図っていく中で人材が一番重要であると考えためです。北九州市には技術者の厚いベースも、高等教育機関や人材をコーディネートする機能もあります。人材供給力が高まれば企業は集まり、企業が集まれば人も来るようになるといった好循環がきっと生まれることとなるでしょう。

## 40. 鶴見 智氏（北九州工業高等専門学校 校長）

「先端技術を持つ世界的中小企業が活躍し、住みやすく、先進的教育が受けられるまちへ」



鶴見 智（つるみ さとし）

群馬高専の物理専任教員に着任後、豊橋技術科学大学知識情報工学系の助手を経て、再び群馬高専に数学専任教員に着任。その後、同高専電子情報工学科の准教授、カナダ国ウオータールー大学の数学学部応用数学科客員准教授、群馬高専教授に歴任し、国立高専機構本部を経て、2022年に北九州高専の校長に着任（現職）。

### 「産学連携に強みがある」

本校は昭和40年創立ですが昨年度に高専制度創設60周年を迎えました。北九州市が政令指定都市になった際に、それに見合うような工業の教育機関設置の要望を受け、設置されたという背景があり、これまで市と足並みを揃えてきました。

北九州市は産学連携に強みがあります。市も中小企業をはじめとした産業界も積極的で、九州工業大学をはじめ「ものづくりのまち」をバックグラウンドとした高等教育機関もあります。これまで他都市も経験してきましたが、本当の意味で産学連携ができている都市はあまりありません。その点、北九州市は北九州産業学術推進機構（FAIS）とともに、形だけではなく密に連携を行っていると感じています。このようなパターンは非常に少ないのではないのでしょうか。

### 「様々な産業のバランスも良い」

工業以外にも、食が豊かであることなど様々な産業のバランスが取れています。農業では若松キャベツなど新鮮な旬の野菜が安く、数多くあります。漁業も豊かな漁場を背景に、魚が新鮮で安い。また、商業では小倉が城下町ということから活気があり、祭り（祇園太鼓など）も盛んです。

観光業では門司を中心に国際的観光地になっており、外国の方も多く訪れ、外国語が飛び交っています。

### 「ロボットや半導体、DX人材を育成」

安川電機をはじめロボット関連企業が市内に立地していることが大きいのではないのでしょうか。ロボット分野の人材育成については高専独自の「COMPASS 5.0」という事業があり、本校は東京高専とともにロボット分野の拠点校になっています。また、本校教授を中心にエグゼクティブビジネススクールで企業人のリスティングも行っています。

加えて、半導体関連企業における技術者不足が懸念される中、本校では半導体の仕組みの理解に重点を置き、どのようにそれがロボットに生かされているのかという形でロボット分野の学生にも半導体に触れるようにしています。このほか、デジタル技術を使いこなせる人材を育てるというところにも注力しています。

### 「グローバル人材の育成に適したまち」

北九州市に半導体関連企業は90社以上あるのは強みであり、売りにしても良いのではないのでしょうか。技術者不足は今後も続くので、人材育成のために連携することが必要です。

今後はTSMCの熊本進出により、韓国・中国・台湾など近隣国からも需要が増えると考えら

れます。北九州市はグローバル教育に適したまちであり、多様な価値観や知識を習得する機会があります。本校もグローバルエンジニア育成の拠点校として、外国人留学生も受け入れています。そのような多様な人材に接触する場として積極的に活用するべきではないでしょうか。

### 「中小企業の技術がキーになる」

人口減少や経済界の停滞など不安感が広がっていますが、前向きな思考に転換すべきです。

キーとなるのは「中小企業」です。大企業はもちろんですが、中小企業の層が厚い点に注目すべきです。「実は持っているけれどあまり知られていない先端技術」とがらせることを産学連携で実現することが重要です。その売り込みについては市が、それを支える本校のような教育機関が、人材育成にコミットすることが重要だと考えます。

また、本校含め大学や他の企業の方も一致団結してリスクリングに関わっていくことが必要でしょう。

### 「アジア圏の IT 企業の誘致」

アジア、特に台湾の IT 企業はレベルが高いので、それを誘致してはどうでしょうか。熊本周辺も TSMC 効果で盛り上がっていますが、北九州市にもそのポテンシャルはあり、引き入れる下地があると思います。工場が無理でも設計部門、開発部門等の川上機能を連れてくるという方法もあると思います。

### 「情報系のスタートアップの育成を」

情報分野のスタートアップを育成することも大切です。北九州市に製造業はありますが、情報産業が弱い印象があります。情報系企業は大都市にある必要はなく、自然豊かな環境を準備できることも北九州市の強みだと思います。

単にスタートアップというよりも、手厚く情報分野に絞って、例えば、本校の学生が起業して、100 人くらいの社員を雇ってくれるように

なると良いですね。他地域の高専卒業生でも実例があり、決して夢の話ではありません。既存企業での雇用には限界がありますが、そのような人が北九州市に留まり、雇用を創出する。こういった人材を本校から輩出したいと考えています。

### 「見やすい情報の発信を」

住む人にとっても住みたいと思える環境を整えることが重要です。北九州市では様々な補助や手当が整えられており、医療関係についても恵まれていると思います。しかしそれらの支援の存在が見えづらいのかもしれない。若い世代などにも、その情報をもっと見えるようにすると良いのではないのでしょうか。

### 「ここでしか学べないような教育環境を」

子育て中の親や子どもたちに対するメッセージも重要です。北九州市でないと受けられない特徴ある教育をして、「ここで学びたい」という環境をつくってほしいと思います。

今、STEAM 教育の重要性が声高に叫ばれていますが、高校からでは遅く、小学校から一緒に取り組むことで教育機会を増やしていき、その中から理工系人材を育てていくことが重要です。その過程に中小企業にも入ってもらい、一緒に子どもを育てる仕組みをつくりたいと考えています。我々は教育機関なので、「ここでしかできない教育」を柱にしたいと考えています。本校はロボットを柱にしていますが、高性能の AI サーバーを導入して、今後生成 AI の活用を新たな柱にしていきたいと考えています。

子育てが安心してできるとともに、先進的な教育が受けられると思ってもらえる環境を市にも整えていただきたいと思います。

人材をしっかりと育て、北九州市に定着するよう、また、外に出ても呼び戻せるような魅力を教育の中で伝えることが重要だと思います。